

五所八幡宮の不思議

（五所八幡宮その1）

皆さん、五所八幡宮の大きな鳥居をくぐり急な97段の階段を登りきると正面に本殿があります。正面から見ると違和感はありませんが、側面や後ろから見ると板塀で囲まれています。なんと本殿の側面や後ろは覆殿と言われる本殿をすっぽり覆う建物で囲まれているのです。ですから一般の皆さんには、本殿の側面や後背面さらに本殿の上部は通常は見えません。その皆さんのが見えないところにちょっとお洒落な彫刻があります。

まず、五所八幡宮の歴史について語ってみたいと思います。五所八幡宮略縁起によると、保元2年（1157年）比叡山延暦寺の僧義圓東国行脚の折り、雑色村の子の神の祠（五所八幡宮の元宮といわれている）に一夜の宿を借りたところ、悪夢により白鳩に導かれて現在の地「龍頭丘の社」に至り、ここに現れた童子（御主祭神誉田別尊）の靈言に従つて勧請したと伝えられています。雑色にはこの時、義圓の挿した杖が発芽・成長したとされる樹齡八百数十年の槐の大木（神奈川県指定天然記念物）があります。

創建当時は源頼朝祈願所六十一社の一つに数えられ、頼朝に仕えたこの土地の豪族、中村莊司宗平が守護神として深く尊崇し、以後その



覆殿に覆われた五所八幡宮の本殿

三男、土屋三郎宗遠と曾我太郎祐信の両家により祭典の供物を納めたと伝えられています。

文明元年（1469年）

正月の火災により焼失しましたが、その時御神体のみを動座したとされ、それ以前の記録や神宝等皆焼失し詳細は不明となりました。その後文明13年（1481年）に新殿が再建されました。

享保7年（1722年）から延享4年（1747年）までの25年の歳月をかけて大規模な建築工事が行われ、覆殿、客殿、庫裏、鐘楼堂、隋神門、隋神像、大鳥居が新築されました。現在の本殿はこの時のもので、残念ながら参道階段の中段にあつた莊厳な隋神門や隋神像は明治6年（1872年）の神仏分離令により廃棄されました。

さて、覆殿に隠された（保護された）本殿のお洒落な彫刻は中村宮司のご協力により写真を撮つていただきました。こんな素敵な彫刻が覆殿の中の本殿にあります。不思議ですね。



覆殿に覆われた本殿の上部の彫刻
鳳凰彫刻の上には金太郎のような童が
本殿の屋根を支えている



本殿戸脇にある瓢箪を持った翁の彫刻
翁の表情がお酒を飲んだとき
のように何とも言えない

参考文献 平成28年五所八幡宮発行「五所八幡宮」

（文化財保護委員）

曾我功